

聴

おん チョウ
きく

17画
一 耳 聃 聃 聃 聃
「つき出ない」

「なりたち」 旧字体は聴。直の
変化した声と心と耳と王との
会意形声字。心をまっすぐに
して「きく」という意味の字。

「心をこめてきく」こと。また
「注意してしっかりとききとる」
こと。



「いみじゆく」
▼心をこめて聞く。しっかりと
と聞く。
聴聞：①人の話を注意して聞
くこと。②仏教で、説教を
聞くこと。③行政機関が事
業などの問題について、関
係者の意見を聞くこと。例
聴聞会

傾聴：耳を傾けて（注意を集
中して）熱心に聞くこと。
例 傾聴に値する話。

聴衆：音楽や講演を聞く人々
聴診：医者が診断のために、
患者の心臓や呼吸器官の音
を聞くこと。例 聴診器

聴取：聞き取ること。例 事情
聴取
聴講：講義を聞くこと。例 聴
講生
静聴：静かに聞くこと。例
御静聴ありがとうございます
ました。

聴聖

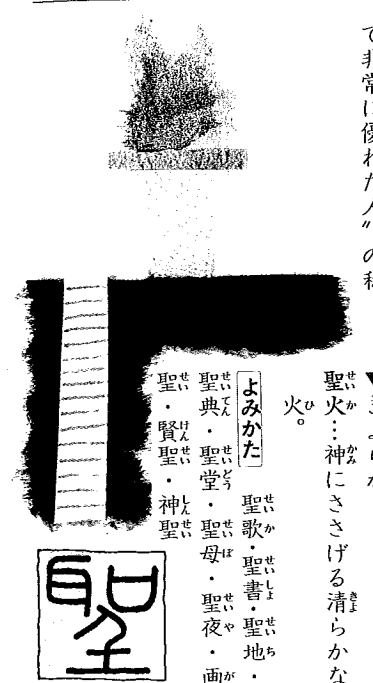
聖

おん セイ

13画
一 耳 取 取 聖
「ながく」

「なりたち」 旧字体は聖。人が
地上に立つ形を表した王と口
と耳との会意形声字。耳さど
く口の弁も立つ人という意味
の字で、「知恵や行いがすぐれ
た人」をいう。また、「ある面
で非常に優れた人」の称。

▼きよらか。
聖火：神にささげる清らかな
火。



「いみじゆく」
▼知恵や行いが優れた人。
聖人：知恵や行いが優れ、人
の手本になる人。特に儒
教やキリスト教で、高徳の
人。聖者。

聖賢：聖人と賢人。また、徳
が優れ賢い人。
▼ある方面で非常に優れた人
詩聖：非常に優れた詩をつ
くる人。
楽聖：非常に優れた音楽をつ
くる人。例 楽聖ベートーベ
ン

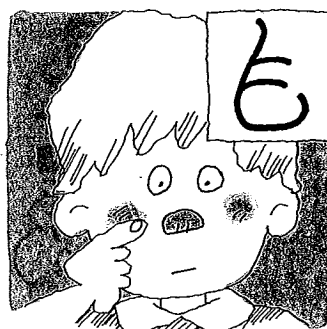
よみかた 聖歌・聖書・聖地・
聖典・聖堂・聖母・聖夜・画
聖・賢聖・神聖

自

おん ジ・シ
みずから

2画
一 自 自 自 自
「左下へはらう」

「なりたち」 人の「はな」の形を
かたどった象形字である。「は
な（鼻）」の本字。自分のこと
をいう場合、鼻を指さすので、
「わたくし」の意味に使われる。
また、「おのずから」の意味に
使われる。



「いみじゆく」
▼自分。わたくし。
自習：自分で学習すること。
自衛：自分で自分を守ること。
自戒：自分を戒めること。
自活：自分の力で生活し、他
人の助けを借りないこと。
自己：自分。例 自己流（世間一
般と違った自分だけのやり
方。）

自賛：自分で自分をほめるこ
と。例 自画自賛
▼おのずから。ひとりでに。
自動：自分の力で動くこと。
例 自動車

自然：おのずから、そうある
もの。人の手や意識が加わ
っていないもの。例 自然
な態度。
▼思いのまま。
自由：束縛がなく、思いのま
まにふるまえること。例
言論の自由。

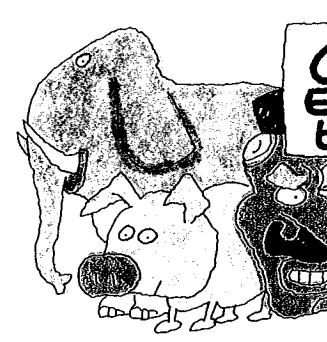
自鼻

鼻

おん ビ
はな

14画
一 自 鼻 鼻 鼻 鼻
「ながく」

「なりたち」 「はな」の本字であ
る自が「私」の意味に使われ
るようになったため、自に音を
表す毘（び）を加えて作ったも
の。形声字である。



「いみじゆく」
▼はな。
鼻孔：鼻の穴。
鼻音：口を閉じて鼻に息を通
して出す音。

鼻息：①鼻でする息。②人の
きげん。例 鼻息をうかが
う。③意気こみ。例 鼻息
があらひ。
▼はじめ。
鼻祖：その事をはじめた人。
元祖：（昔、中国では動物は
鼻からできたと考えられて
いたため。）

よみかた 鼻歌・鼻緒・鼻紙・
鼻薬・鼻毛・鼻声・鼻筋・鼻
血・小鼻・耳鼻科・隆鼻
さんこう 鼻にかける鼻
をする。鼻につく鼻いっもの
ことであきあきする。木で鼻
をくくる鼻想のない様子。
鼻を明かす鼻相手を出しぬい
て、あつと言わせる。